

教えて!

富山 けいざい



スマート農業って？

◆ロボットやICT導入/データ活用し高度な経営

ブン子さんは北陸経済研究所の地域開発調査部・石黒厚子主任研究員に聞きました。

Q－どんな農業かしら。

A－ロボットやICT（情報通信技術）などの先端技術を活用し、省力化や高品質化を目指す新たな農業のことです。例えば昨年テレビドラマにも登場した自動走行する「ロボットトラクター」や、収量センサーや食味センサーを搭載した「コンバイン」、除草剤の散布や稲の生育診断を行う「農業用ドローン」などを導入します。農業は労働力の不足や耕作放棄地の拡大などで厳しい状況にあり、作業の省力化や生産性の向上を図ることが課題となっています。このため有力な手法として注目されているのです。



Q－どう変わるの。

A－例えば4人で行っていた作業が2人で可能になったり、天候に左右されず作業が進められたりと農作業の効率化や省力化が進み、高品質化が実現できるとされています。また、AI（人工知能）の活用によって熟練者の技術やノウハウをデータ化すれば、技術の習得も容易になり、若者や女性の参入といった担い手の確保にもつながるでしょう。集めたデータを解析することで、作物の生育を予測するなど高度な農業経営が可能になります。

Q－課題はななに。

A－農機の価格などコストが従来に比べて高くなります。ただ要件を満たせば、国や県から補助や融資を受けることも可能です。人件費が削減され、生産性が向上すれば費用に見合った効果も得られるはずです。技術面では耕作面積が大きい水稻に比べ、野菜、果樹など向けのロボットなどの開発が遅れているという課題もあります。

Q－県内の取り組みは。

A－既に田植機やコンバイン、ドローンなどが数多く活躍しています。県が行ったアンケートでは、多くの農業者がロボット農機やICT利用に関心を持っていると回答しました。県は関係者で「とやま型スマート農業推進コンソーシアム」を設けており、モデル農場で個別の技術を検証しています。